

山口県高P連 会報

令和4年2月15日発行

23号

発行 山口県公立高等学校PTA連合会
〒753-0072 山口市大手町2-18 山口県教育会館2F
TEL 083-923-4761 FAX 083-923-4785
http://ymg-kpren.jp/ E-mail ymgt.koup@etude.ocn.ne.jp

ごあいさつ

山口県公立高等学校PTA連合会

会長 中村 二郎



会員の皆様におかれましては、平素よりPTA活動に對しまして、ご理解・ご協力を頂きまして

感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症対策で様々な形で活躍されておられます保護者の方、生徒たちが安心安全に学校生活をおくれるようご尽力頂いております、各校の校長先生をはじめ諸先生方に対しましても重ねて感謝申し上げます。

さて、各単位PTAの執行部の方から学校施設設備の修繕や感染対策・登下校にかかわる事など様々なご意見を提出いただき、集約したものを11月9日に山口県教育委員会緊急教育長のもとに要望書として提出し、各学校からの要望を速やかに実行していただくよう申し入れました。予算の関係上、緊急性の高いものから随時行っていくとご回答頂きました事を報告致します。

また現在、「第3期県立高校将来構想検討協議会」が開催されており、高P連からは私と田中副会長が参加しております。この検討協議会は、平成17年に「第1期」平成27年に「第2期」を策定し、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開などを進め

るための学校・学科の再編整備や、全ての県立高校へのコミュニティ・スクールの導入による学校運営・学校支援・地域貢献の充実など高校教育の質の確保・向上を図られてこられ、令和3年1月の中央教育審議会答申を受けて、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、GIGAスクール構想や学校における働き方改革を強力に推進し、学校教育を社会に開かれるものとしていくことで、「令和の日本型学校教育」の実現に向けた改革を進めていくこととされています。

こうした中、15年後の山口県の高校受験を控える中学生の人数が現在より3,000人減少すると見込まれており、中・長期的な視点で高校教育の質の確保・向上を図っていくことの事です。

これまで5回の会議に参加をし、保護者の立場として学科・学校の再編について疑問点など訴えてきてまいりました。しかしながら私の不勉強により県内各地区の状況すべて把握しておらず、多角的

に意見を申し上げることができませんでした。今後5年ごとに各地区の状況を踏まえ検討されるこの事です、その際には皆様から様々なご意見をお寄せいただけたらと思います。

昨春秋ごろは感染者数も減少し平穏な生活を取り戻しつつありましたが、ご承知の通り今年1月に入り山口県内でも感染が急拡大し、我々大人も子どもたちも気の抜けない状況に戻ってしまいました。われわれPTAは「子どもたちの応援団」です。卒業を控える子どもたちが笑顔で卒業できるよう、在校生が安心して進級できるよう、改めて感染対策を講じて頑張っていきたいと思います。

【お知らせ】

令和4年度 山口県公立高等学校PTA連合会 総会

日時：令和4年6月3日(金) 13:30～
会場：ホテル かめ福 (山口市湯田温泉)

令和4年度 第64回中国・四国地区高P連大会 愛媛大会

日時：令和4年7月26日(火)
会場：愛媛県県民文化会館 (松山市)

令和4年度 第71回全国高等学校PTA連合会大会 石川大会

日時：令和4年8月25日(木)・26日(金)
会場：いしかわ総合スポーツセンター他 (金沢市)

県教育長へ要望書提出について

地区別連絡協議会（7地区）及び常任委員会から提出された要望事項と昨年度までの要望事項を再検討し、以下の内容について「令和4年度要望書」として11月9日（火）に中村会長、高月副会長、田中副会長、佐々木副会長から県教育委員会の繁吉教育長に提出し、意見交換を行いました。下記の各要望事項についての回答書を、3月にいただくことになっています。

要望事項

1 子どもたちの健全育成と地域連携教育について

- （1）学校・家庭・地域社会との連携・協働体制の確立
- （2）コミュニティ・スクール機能の充実

2 県立高校の再編整備とそれに伴う教育現場への配慮支援について

- （1）校舎等の部分的な老朽化対策ではなく、全面的な建替えの検討
- （2）質の高い高校教育が維持されるような教職員配置
- （3）遠距離通学生の手交手段の確保や利便性の向上、負担軽減（奨学金の貸与・支給）

3 キャリア教育の推進と進学支援・就職支援の推進について

- （1）「キャリア教育総合推進事業」等、各種事業の継続、普及
- （2）仕事に対しての取り組み方や、やりがいを子供たちに伝える仕組みづくりや体制づくりの推進

4 施設、設備の充実と安全な教育環境の整備について

- （1）校舎・施設・設備の老朽化への計画的な対応
- （2）特別教室、実習室、準備室、体育館への空調設備の設置、トイレの様式化
- （3）ICTを活用した効果的・効率的な教育の実現、通信環境の整備、保護者支援
- （4）新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を踏まえた、安全・安心な学校づくりに向けた施設・設備の充実、情報共有（市立学校を含む）

5 部活動の充実活性化について

- （1）外部部活動指導員の配置
- （2）「運動部活動の在り方に関する方針」「文化部活動の在り方に関する方針」に基づく指導・運営体制の構築
- （3）コロナ禍における適切な部活動実施に向けた支援

6 いじめの未然防止や相談・支援体制の充実について

- （1）生徒指導・教育相談体制、支援機能の充実
- （2）障害者への理解を推進
- （3）感染症に係る感染者やその家族を守る徹底した取組

7 生徒通学時の安全確保等について

- （1）交通安全教室等、事故防止に向けた指導の継続
- （2）登下校時の安全対策の徹底



令和4年度 主要行事予定

月	日	行 事
5	27(金)	令和3年度第5回常任委員会（山口県教育会館） 令和4年度第1回常任委員会（「」）
6	3(金)	山口県高P連総会（ホテル かめ福）
7	26(火)	第64回中国・四国地区高P連大会愛媛大会（松山市）
8	2(火)	第2回常任委員会（山口県教育会館）
	25(木)～ 26(金)	第71回全国高等学校PTA連合会大会石川大会（金沢市）
10	5(水)	第3回常任委員会（山口県教育会館）
R5.1	20(金)	研修会・情報交換会（会場未定）
R5.2	16(木)	第4回常任委員会（山口県教育会館）

祝 表 彰

本年度、以下の各団体・個人が表彰されました。
おめでとうございます。

◇全国高等学校PTA連合会会長表彰（団体の部）

山口県立岩国工業高等学校PTA
山口県立大津緑洋高等学校PTA

（個人の部）

筑本 浩行 氏（山口県公立高等学校PTA連合会前副会長）
（山口県立岩国工業高等学校PTA前会長）
佐藤 淳子 氏（山口県公立高等学校PTA連合会前副会長）
（山口県立大津緑洋高等学校PTA前会長）

（役員等表彰）

銭廣 義和 氏（山口県公立高等学校PTA連合会前会長）
山本 貴司 氏（山口県公立高等学校PTA連合会前事務局長）

◇優良PTA文部科学大臣表彰

山口県立熊毛南高等学校PTA

高校生の活躍

総合家庭科の魅力く地域と共に紡ぐ伝統く

山口県立厚狭高等学校 教諭 津村 佳子



本校は、本年創立148年を迎えた歴史と伝統を誇る学校です。総合家庭科では「スペシャリストの基礎を育む学習指導」に重点を置き、家庭科の学習で身につけた知識や技術を活用し地域の活性化に向けた研究活動や様々なコンクールへのチャレンジをおして、その力を高め、自らの夢の実現に向けて日々努力を重ねています。

その取組の成果として、今年度も3年の山本陽菜さんが第27回国高校生クリエイティブコンテストで全国2位にあたるクリエイティブ賞を受賞することができました。



クリエイティブ賞受賞作品

12月に東京で授賞式が開催され、会場には創造力豊かでハイレベルな作品が並びましたが、その中でも本校生徒の作品が輝き、多くの方から直接賞賛のお言葉をいただいたことは本当に感激でした。

作品の制作は2020年の12月頃、コロナ禍の中、例年より遅れてスタートしました。2021年の全体のテーマ

「tsunagu」から生徒一人ひとりが連想して自分なりのテーマを決め、その想いをデザインで表現しました。受賞した山本さんは、制作前の授業でのプレゼンテーションで「今まで学んできた技術の積み重ねを雪に例え、見てくださる方には努力と成長が伝わればよいと思う。感謝の気持ちを伝えたい。」と発表し、彼女の想いに感動したのを覚えています。



全国高等学校クリエイティブコンテスト応募作品作成

制作では、県外への移動が制限されたため、自分のイメージに合う布が手に入らず、ほとんどの作品は自分で布を染めました。本校ではこれまで、防府市富海の藍染工房「草衣so」などの協力を得て、藍の栽培、すくもの加工、天然灰汁醗酵建ての藍染に挑戦しています。藍染は環

境にも人にも優しく、何より化学染料では出せない美しさがあります。生徒はその魅力を感じ、進んで多くの作品に取り入れていました。

作品の制作で一番の要は手芸技法です。自分の思いをデザインや技法で表現しますが、先輩方の作品の技法は本当に素晴らしい、皆が敬意を払い目標として取り組みました。地道な作業の積み重ねで、先が見えず辛く苦しく感じますが、少しずつでも出来上がった時の喜びと、1年生から検定の取得で身に付けた集中力、忍耐力があるからこそ何とか乗り越えることができると思います。今回受賞した山本さんの作品は、彼女の想いや積み重ねた努力が見る人に伝わる素晴らしいものでした。完成し試着した時、仲間から称賛の声が上がった時の嬉しそうな表情は忘れられません！仲間と励ましあい、試行錯誤しながら完成した時の達成感、これが生徒にとって一番の宝物だと感じます。指導者として生徒が辛いときに上手く支えられなかったことも多くあり、後悔が絶えませんが、「生徒のできる力を信じて支えていくこと」を忘れずにいたいと思います。

また、他校との連携事業も作品作りに生かすことができました。県教委の事業である「やまぐちハイスクールブランド創出事業」でTOKYO2020大会を応援するため、柳井商工高校、周防大島高校と共同開発した「2020 縞」と名付けた柳井縞織物でネク



藍染

タイやバッグなどの商品開発を行いました。厚狭高校は糸の藍染めと縫製を担当しており、柳井縞の魅力を全国に発信するため2020縞も今回の作品に取り入れた生徒が多くいました。

さらに、厚狭高校では専門分野の講師（和裁、洋裁、編み物、藍染、布花）をはじめ、多くの地域の方の協力を得て学習が成り立っています。「厚狭高校のために少しでも力になりたい。」という有難いお言葉をいただくことも多く、改めて地域の皆様には心より感謝申し上げます。

厚狭高校での学びが地域の方と豊かな瞬間を積み重ねて紡ぐ伝統になるよう努力してまいりたいと思います。

最後になりましたが、一番に生徒を想い支えてくださった保護者の皆様、心より感謝を申し上げます。家庭での愛情が一層紡がれていくことを心から願っております。



外部講師による学習（洋裁）



検定（和裁）



柳井縞のネクタイの縫製

地域を舞台に活動する文化部！ 山口県立萩高等学校

全ての高校がコミュニティ・スクールとなっている山口県では、多くの高校が地域貢献活動を展開しています。

今回は、地域に元気をとどける萩高校の文化部の活動の様子を紹介します。

科学の面白さを
伝えたい

科学部

萩わくわく科学クラブ運営委員会主催講座の一環として、小学生対象の「わくわくミクロワールド」を萩高校で開催し、学校のビオトープに生息するプランクトンの観察や実験のアシスタントを務めています。

ほとんどの小学生にとって顕微鏡操作は初めてで、生きて動いているプランクトンを見て、歓声があがっていました。



維新の偉人
を伝える

新聞部

萩市内の歴史探索イベントで、史蹟等の紹介をしています。「子どもが学ぶ

松陰先生」では、小学生にわかりやすく、また、楽しんでいただけるよう、スケッチブックを使ったり、寸劇風にしたりするなどの工夫をし、「涙松」では、松陰先生が妹たちに送った手紙を自分たちなりに解釈して紹介しました。

大人が参加する「松陰の道歩行大会」では、吉田松陰と久坂玄瑞との間の手紙のやりとりを取り上げるなど、一歩踏み込んだ紹介をしました。

また、萩高の校内に散在する歴史的な建造物や顕彰碑なども紹介しました。



歌声で地域に
元気を届ける

合唱部

私たちの活動の舞台は、ホールだけではなくありません。小学校の日曜参観や美術館などの文化施設、萩マルシェなどのイベント等で、萩高伝統の美しいハーモニーを地域にお届けしています。コロナ禍の中で開催した文化祭での

リモート合唱は、県内高校の合唱部員のリモート大合唱（NHKで放映）や「二〇〇万人の花は咲く」ミュージックビデオを作ろう！」（同じくNHK）にもつながりました。

小規模化に加え、コロナ禍で、合唱ができなくなっている小・中学校も多いと聞いています。私たちの地域での活動を通して、地域の小・中学生に歌うことの楽しさを伝えていきたいと思っています。



保育園で
英語の人形劇

英語研究部

「シンデレラ」を英語で上演しました。ガラスの靴や登場する動物などを英語で言ってみる練習をして、さあ本番です。劇の途中では、高校生の後について、大きな声で言ってくれました。

終了後の園児達は人形や背景に興味

津々。実際に手に持って高校生がしたように動かしていました。小学校からはじまる英語に興味をもってくれたようです。



市立図書館に
作品を展示

美術部

美術部や美術の授業で制作した絵手紙や版画、本藍染めのハンカチや地元の竹紙を使った工芸作品などを、定期的に萩市立図書館で展示しています。



保育園で
防災教育

JRC部

幼稚園・保育所向け防災教材「ぼうさいまちがいさがしきけんはつけん！」や、日赤からお借りした「まちがいさがし」、自作クイズなどで、避難

時に大切な「お（押さない）は（走らない）し（喋らない）も（戻らない）」を強調して、地震発生時の行動についてお話ししました。園児のパワーに圧倒されながら、にぎやかな講習となりました。



また、スポーツ系女子部員は、海と日本プロジェクト「スポGOMI甲子園」決勝大会に出場し、漂着ゴミが散乱する世界遺産の恵比須ヶ鼻造船所跡地に近い防波堤周辺でゴミを集めまく、リモートの部全国2位になりました。



離島ミニコンサー
トを計画中

吹奏楽部

コロナ禍前は、阿武町で開催される「ABUスイム&ラン」で、スタート前のファンファーレとともに、選手が競技している間の約2時間近くを激励演奏しました。総合支援学校のサマーフェ

スタには有志で参加しました。

日頃、高校生や音楽の生演奏に触れる機会が少ない離島で、合宿&ミニコンサートができ
ないか、検討中です。



萩焼でお手前

茶道部

萩美術館のイベントや、着物ウィークでは菊屋家住宅で、お手前を披露しました。茶碗は著名な萩焼作家さんの作品で、手が震えました。



「萩高生と学ぼう学習会

@萩西中」に参加

放課後の学習支援に、文芸部、英語研究部、科学部などが、部活動の一環

として交替で、それぞれ、国語・英語・理科が得意な高校生？というふれ込みで参加しています。中学生にも好評です。



高校生は、すぐ明日の地域社会を担う存在です。そんな高校生の「真剣な姿」は、

中高生熟議@萩東中学校

萩高校では、例年、高P連のご支援を受け、2年生が熟議を行っています。今年度は、萩東中学校全2年生に、それぞれの学校運営協議会の委員を加え、本校の探究科2年生がファシリテーターを務める中高生熟議を11月19日に行い、県内の中学校教育研究会特別活動部会の先生方に参観していただきました。

お互いが1年生であった昨年12月から積み重ねてきた取組で、第一回は、「ふるさと・萩自慢」ふるさと・萩について「ぶちすごい」、第二回は「萩市の課題『交通・環境・施設・人口』について」、今回は、第三回熟議でグループごとに決めたテーマに基づいて「萩



地域の皆さんに、明るい未来を想像させ、元気づけ、地域そのものを元気にしていきます。萩高校の文化部は、そんな地域の元気づくりの大きな力になってくれています。小学生や中学生にとっては、将来に見通しをもつことにも繋がり、高校生にとっても、自分のためだけでなく、他の人のために笑顔で汗をかける経験は、人間的・社会的にも大きく成長させる貴重な経験だと感じています。

高校生が地域に勇気を与えています。

市への要望等」を熟議しました。

回を重ねる度に発表や話し合いが上手になっていく中学生。見学された先生方からは、「中学生の意見を上手に引き出そうとする高校生の姿に感心した」等のご意見をいただきました。

熟議を経験した彼らが大人になり、共にまちづくりの担い手になる日が、そう遠くない将来やってきます。

めざす未来

山口県立長府高等学校

なぎなた部顧問

嶋田 信子

本校は、美しい土堀の街並みや歴史ある寺社のある城下町長府の中にあり、今年創立111年を迎えました。以前は長い間女子高でしたが、平成15年度より男女共学になり、普通科から総合学科となつています。本校になぎなたが取り入れられたのは、平成3年のことで、教育課程の改定で体育に武道が取り入れられるのに伴い、柔剣道場が新しく建てられることとなりました。それを機に、当時の校長が、城下町にある女子高という特徴を生かし「日本古来からある唯一の女子武道であるなぎなたを取り入れてみよう!」ということで、本校でのなぎなたの取組が始まりました。まず建物ができ、そこで行う競技を選び、教員が学び、生徒が学ぶという順番で体育の授業で戦後県下初となるなぎなたが導入され、県内唯一のなぎなた部の活動も始まりました。



なぎなたは、もともと日本の長柄武器の一種で、平安時代に登場した武器です。牛若丸と弁慶の戦いのときに弁慶が持っていた長い刀、それがなぎなたです。現在、競技用のなぎなたとして使われているのは、檜木で作られた柄の部分と、竹で作られた刃先をつなぎ合わせた、長さ2m 15cmほどのものです。種目は防具をつけて決められた部位を互いに打突して勝敗を競う「試合競技」と、防具は身に着けず指定されたなぎなたの形を対人で行いその技を競う「演技競技」の2種類があります。

これまでの本校の主な戦績は、国民体育大会の演技競技で2度の優勝、インターハイで団体3位が2回、全国選抜で個人2位、団体3位というのが主な記録ですが、最近はずっと8の壁をなかなか破ることができず苦戦しています。

以前は試合に対して「勝たなきゃ意味がない」「勝たずして本当の達成感はない」「日本一にならないと見えない景色を見せたい」と、勝つことがすべてではないけれども、知らず知らずのうちに勝負を重視して選手も自分も追い込んでいたのでは



ないかと反省しました。なぎなたは老若男女、生涯をととして続けることができる武道ですが、卒業後に続けてくれる生徒はほとんどいません。ただでさえ少ない競技人口ですし、全国で入賞するまであと一步のところまで来ているのにやめてしまふ生徒たちに私もかなり気落ちしていました。考え方を少し変えてみることにしました。

今の私のこだわりポイントは、部員一人ひとりが社会に出て何を武器として生きていくのか、その大きな強みになるようなものを部活動とおして学んでほしいということ。それを軸に指導していく中で私が大事にしているものは、まずは、なぎなたが好きになるようにすることです。楽しくないとダメ、やらされているではダメ、自らの意志で強くなりたいと思えば、本気で取り組めると思えます。私の役割はそう思えるように、仕向けることだと思つて取り組んでいます。そして、それは自分だけの努力ではなくチーム全体で強くなることが必要で、そのためには、チーム内での妥協を許さない。練習の中では先輩も後輩もありません。気付いたことは何でも言える、そんなチーム作りに取り組んでいます。

また、競技特性上、相手の動き、特に武道特有の『氣を読む』ことは大変重要で、日常生活の中で常日頃から他人への気遣いが、当たり前にそしてさりげなくできるような指導をしています。この、「さりげなく」が重要で、「私頑張つてやってます」というのをささず「さつ」と「すつ」と動けることが大事です。たとえば弁当

を食べ終わったら「さつ」と弁当ガラが下げられ、お茶が「すつ」と運ばれてくる。過剰な気遣いは必要ありませんが、周りの人が何をしようとしていて、自分がどう動くか相手が気持ちよく過ごせるか、他人とどのくらいの間合いを取り、心地よい空間が作り出せるのか。この細やかな気遣いを相手に気付かれることなく行動できるかということが、なぎなたの試合の中で、相手の隙を見抜いて一本決めることができるという、色々な意味での視野の広さにつながると思うのです。まだまだ充分に実践できていませんが、このような人になりたいと私自身も心がけていることですし、先読みできる力は社会に出てきつと役立つことですから、どんなことより大事なことでと思います。

数年前、なぎなたの試合では良い結果は残せなかったものの、3年間よく頑張った生徒が、地元企業に就職しました。上司の方から、その生徒のことを「よく気が利くいい子ですね。誰かに言われる前に自分のできることを見つけて動ける」といって褒め言葉をいただきました。また、つい先日、助産師になるという夢に向かって頑張っている卒業生が



らうれしいメールをもらいましたので一部紹介します。「いろいろな病院に実習に行かせていただき、行く先々で自分はまだまだだと反省する事が多いのですが、ありがたいことに御指導していただいた方々に「気が利く」「先を見て行動できる」という評価をしていただくことが多く、その言葉をいただくたびに、「これって部活動で学んできたことだなあ」としみじみ感じています。私の高校3年間は今の実習やこれから就職後の生活に関わる大きな成長の一つであったと、今更ながらただがむしゃらに動いていただけの高

校生の自分に感謝しています。この評価に甘んじず、あと一歩足りないと感じている部分を捉え精進していきたいと思えます。」というメールでした。生徒が卒業後も頑張ったり、活躍したりしている様子を聞くことに大きな喜びを感じている今日この頃です。

出演予定でしたが体調不良のためご出演できなかった、松江市出身の佐野四郎氏のメッセージが読み上げられ、過去(2014年)に松江市で収録された公演が放映されました。情感あふれ、迫力ある語り口や演奏に時を忘れて引き込まれました。その後、放映された公演に佐野四郎氏とともに出演していた佐野氏の同級生であり、ミュージシャンとして活躍しておられる山本恭司氏による演奏があり、小泉八雲氏が描いた幽玄な怪談の世界を味わうことができました。

家の講師に加え、高校生や保護者、卒業生や地域の方が参加する分科会もあり、大会テーマである「ご縁づくり」の大切さを味わうことができます。



神楽「大蛇」 浜田商業高校郷土芸能部

第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会報告

令和3年8月25日(水)、第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会が、島根県民会館大ホールからオンライン配信により開催されました。

オンライン配信による全体会は、午前

中の半日の日程で行われました。配信の内容は、「スライド上映による参加各県の連合会の紹介」「開会式」「記念講演」「アトラクション」「閉

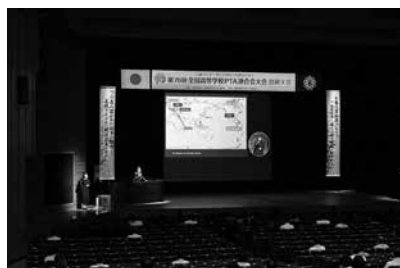


泉 満 全国高P連会長 挨拶

会式」でした。「開会式」では、「優良PTA文部科学大臣表彰」「全国高P連会長表彰」の授与も行われました。

「記念講演」では小泉八雲の曾孫にあ

たる小泉八雲記念館館長の小泉凡氏による講演があり、小泉八雲の生い立ちや教育観などが紹介されました。続いて、本来ならばこ



記念講演 小泉 凡氏

「アトラクション」では、高校生による吹奏楽の演奏や神楽舞の披露がありました。



長崎の鐘「永井隆博士朗読劇」三刀屋高校演劇部

ひたむきで熱気あふれる演奏や演技で、大会の雰囲気が大変盛り上がりしました。大会が1年延長される中、大変な思いで迎えた本番、本当に素晴らしいと思います。午後からは、事前収録された6つの分科会の配信が行われました(配信は12月31日まで行われました)。各分科会では、最初に高校生によるアトラクションが行われ、演劇や神楽など、熱のこもった迫力ある演技には感動しました。続いて、基調講演や模擬授業、ディスカッション等が行われました。各テーマに関係した専門

【事務局からのお知らせ】

山口県公立高等学校PTA連合会ホームページから、これまでに発行された全国高P連会報、山口県高P連会報をご覧になることができます。

ぜひご覧ください。

(<http://ymg-kpren.jp/>)

【写真は、島根大会実行委員会提供】(高P連事務局)

(高P連事務局)

学校紹介

山口県立山口中央高等学校 P T A 副会長 小野 俊 雄

はじめに

本校は、明治20年に大日本教育会山口支会の事業として、山口町早間田に開校した私立山口女学校以来、今年創立一三五周年を迎える県内屈指の伝統校です。

幾度かの変遷の中で、昭和30年に、県立山口高等学校から分離し、「県立山口中央高等学校」となり、現在に至ります。

また開校以来、県の女子教育の中心校としての役割を担ってきましたが、平成11年には初めて男子生徒が入学し、現在では4割余りにまで増えています。

恵まれた環境の中で

現校舎は、平成7年にそれまでの中園町から宮島町に移転されました。竣工から26年たちましたが、未だ美しさが保たれており、来訪された多くの方が、校舎や周辺の景観の美しさを感想として述べられます。中庭には、ウッドデッキ

キや、中園町校舎から移設された噴水が設置されている他、丸窓をはじめとする幾何学模様が、校舎内外に配置され、豊かな情操を育むための配慮が感じられます。

また、生徒昇降口にはレリーフが設置され、ゆ三角形（2つの底角が72度の二等辺三角形）の性質が解説されていますが、この三角形も校舎のいたるところに散見されます。



景観だけでなく、校内には、各地で活躍されている卒業生の制作されたオブジェや絵画などの芸術作品も随所に展示されています。

これらは、現校舎建設に携わられた多くの方々の熱意と愛情が具現化されたものであり、子どもたちは、こうした恵まれた環境の中で、学校生活を満喫しています。

学校生活では

落ち着いた環境の中で、熱心に学習活動が行われており、授業だけでなく、始業前の「朝学」や、学習内容の理解を深めるための「今週の課題」等により、学力の定着と一層の向上に取り組みられています。こうした従来からのものに加えて、

昨今はICT教育も積極的に進められています。

平成31年度に、iPad45台が、かなめ会（同窓会）から寄贈され、先鞭を着けるとともに、当初予定された、教科や「総合的な探究の時間」における活用だけでなく、遠隔講義や、卒業式後のホームルーム中継などに活用されました。

翌年には、国と県の事業によりすべての教室に電子黒板が導入された他、今年度から生徒一人ひとりにタブレット型パソコンが貸与され、これを用いた教育活動が本格的に始まっています。

これらは、授業だけでなく、お知らせやアンケートの実施にも活用されており、アンケート結果でも、生徒・保護者の方々にはおおむね好評のようです。



コロナ禍の中で

コロナ禍により、昨年度は、1学期のクラスマッチが中止になりました。そこで、文化祭の時期に、文化部発表と併せて競技会を行い、翠嶺祭として開催されました。（例年本校では、文化祭が「翠嶺祭」と呼ばれています。）

このとき、PTAとして何かお役に立てないか学校と相談し、役員でジュースとアイスクリームの販売を行いました。子どもたちの笑顔には救われる思いでしたが、前年までの翠嶺祭を知る保護者の方は寂しい思いで一杯だったようです。

今年度は、コロナ禍が小康状態の時期にクラスマッチが実施され、また合唱大会も、規模を縮小し、非公開にはなりましたが、1学期末に開催されました。これを受け、文化祭も通常日程での開催が期待されましたが、最終的には、非公開での文化部発表と有志のパフォーマンス発表のみとなりました。



一方、部活動は、コロナ禍ゆえの苦勞をしながらも、運動部、文化部ともに熱心に活動しています。体操部は毎年全国大会に出場している、今年度は、陸上部、弓道部、バドミントン部、放送部、ハンドボール部が中国大会に出場し活躍しました。

また、山口県高等学校文化連盟の設立以来、本校に事務局が置かれ、様々な文化部活動のお世話をされています。このためか、文化・芸術活動が盛んで、個人で取り組む生徒も少なくなく、今年度も「全日本学生音楽コンクール」で入賞する生徒が出ています。

進学状況

卒業後は、多くの生徒が上級学校に進学しています。市内にある山口大学や山口県立大学への進学を希望する者が多く、昨春は2校合わせて41名が合格しました。子どもたちの努力もさることながら、普段の指導に加えて、面接や小論文の指導など長期間にわたり、先生方に、丁寧にご指導いただいた賜物だと感じます。

大内・小鯖協育ネット

令和2年度から大内中学校区の学校で構成されている大内・小鯖協育ネットに加入し、あいさつ運動はじめ、小・中・高と異校種での協働の取組が行われています。

このネットワークや、本校の学校運営協議会のつながりの中で、高校生の学校内外での活躍の場を設けていただいたり、紹介していただいたりして、子どもたちは様々な活動に参加し、豊かな人間性や社会性の涵養につながっています。それと同時に、大内地域唯一の高等学校として、地域とともにある学校としての地域貢献も進められています。

PTA組織について

ホームルームごとに選出された保

護者評議員（2名×15クラス＝30名）から、会長1名、副会長3名、監事2名を選出し、これに顧問（前会長、校長）を加えて「PTA役員」とし、企画・調整にあたるとともに、専門部として、総務、研修、生徒指導、進路指導を設け、それぞれの部長・副部長を中心に先生方と協力して、例年、学校行事等に参加・協力して活動しています。

今年のPTA・教育後援会総会では、定数に関する規定を見直し、書面による開催でしたが、総会を経て、PTA会則を改正しました。

これまで、副会長は3名で、内1名は教頭先生にお願いしていました。しかし、教頭先生には校内の立場の業務もあることから「加えることができる」と変更し、保護者3名が副会長につく形にしました。これにより執行部のメンバーが一人増え、また、仕事の継続性も図りやすくなりました。

さらに、先生方をお願いしていた事務局職員（書記、会計、総務）も、「若干名」として具体的な人数を定めず、状況に応じて校内で役割分担を調整していただきやすくなりました。

これからも、適宜見直しを行いながら、活動しやすい組織づくりを進めていきたいと考えています。

PTA活動について

今年度もコロナ禍で様々な行事が

中止または縮小される中、学校とPTA執行部で相談し以下の活動を行うこととしました。

1つめが11月8日から1週間行われた学校正門前でのあいさつ運動への参加です。大内・小鯖協育ネットの加盟校が一斉に行うこの行事に、PTA執行部のメンバーも参加しました。あいにく雨が多い週でしたが、生徒会・JRC部の生徒とともに笑顔で元氣よく登校する生徒を迎えられました。

2つめは3月17日に開催される予定の高校生熟議です。生徒会を中心として、PTA執行部や学校運営協議会の方々と交え、テーマは「校則」で行われる予定です。日頃、生徒が関わっている大事な規則について、今の時代にマッチしたものか、またこれからはこうあるべきなどの議論が期待されます。

また、例年PTA主催で行ってきた文化講演会は、高文連自主事業を活用させていただき、山口市民会館大ホールにて



山口県交響楽団の演奏会を開催しました。PTAからは、主催者として会長が開式の挨拶を述べましたが、こちらも感染拡大防止のため、残念ながら、保護者の参加はかきませんでした。

臨時評議員会の開催

組織のところで述べたように、コロナ禍のため、総会は2年連続で書面での開催となりました。ただ、評議員会は、実際に集まって、顔を合わせての協議ができています。定例の評議員会に加え、昨年度、今年度と、修学旅行の実施の可否、時期や行先などについて、2学年評議員会を臨時に開き、先生方と意見交換を行いながら、実施に向けて協議しました。今年は、6月28日に行いましたが、お陰様で修学旅行は、中止にならず、子どもたちは、高校時代の楽しい思い出を残すことができました。

おわりに

今年度はこのような活動を行い、次年度以降はコロナ終息により、多くの学校行事が開催されることを願いつつ、少しでも多く生徒たちに歩み寄れる活動をして行きたいと思えます。

令和3年度 小中高PTA・校長会連絡協議会開催

見舞金給付事業

☆ 傷病見舞金

補償期間 4月1日～翌3月31日

見舞金負担金 全日制 300円

定時制 150円

被保険者

＊生徒（日本スポーツ振興センターの決定に基づき給付）

見舞金（最高5万円）

香料 3万円

＊保護者（PTA活動中のみ）

入院見舞金 最高3万円

香料 3万円

☆ 障害見舞金 10万円

☆ 死亡見舞金 10万円

この連携協議会は、小・中・高の連携協力を図る趣旨で、平成19年度から実施されている協議会です。今年度は県P連が主管担当し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Zoomによるオンライン会議の形式で11月26日（金）に開催されました。

協議では、小中高の各校長会会長、県P連・高P連の会長、副会長等が2つのグループに分かれて、「今後のPTAはどうあるべきか」等について意見交換を行いました。

「行事中心の活動から問題解決型の活動へ」「入学前の保護者とのつながりづくり」「小・中における楽しいPTA活動の経験が高校で生きた中心にあるべきであり、生徒の声をよく聴く」「PTAのAはエリア（地域）と捉える」「PTAにC（コミュニティ）を加える」「PTCAへ」「キーワードはつながること、楽しむこと」等、様々な提案や意見交換が行われました。

今後もこの会が、小・中学校PTAおよび高校PTAの縦の連携強化を図り、学校・家庭・地域の連携、協働の取組をさらに充実・活性化させていくことにつながる機会となるよう取り組んでまいりたいと思います。



令和3年度 災害負傷状況

（令和3年12月末日現在）

運動種別件数

種別	件数
野 球	18
サッカー・フットサル	32
バ ス ケ	18
ハ ン ド ボ ー ル	6
バ レ ー ボ ー ル	8
ラ グ ビ ー	9
テ ニ ス	4
陸 上	3
バ ド ミ ン ト ン	5
柔 道	2
そ の 他	7
計	112

傷病見舞金 額別

見舞金	件数	合計額
¥10,000	23	¥230,000
¥20,000	13	¥260,000
¥30,000	8	¥240,000
¥40,000	6	¥240,000
¥50,000	67	¥3,350,000
計	117	¥4,320,000

学校管理下状況件数

発生時	件数
授 業	18
部 活	90
登 下 校	3
学 校 行 事	4
そ の 他	2
計	117

障害見舞金

合計額	件数
	0

入院見舞金

合計額	件数
	0

部位別件数

部位別	件数
骨折	48
脱臼	9
半月板損傷	11
半月板断裂	13
靱帯損傷	16
靱帯断裂	12
打撲傷・挫傷	11
捻挫	12
脳挫傷・頭部外傷・くも膜下出血	2
軟骨損傷・炎症・骨炎・軟骨炎	4
アキレス腱断裂	1
ヘルニア・腰椎分離症・腰痛症	11
関節炎・関節痛症・偽関節・関節唇損傷	13
血腫	8
その他	22
計	193

（重複しています。）

各校PTAの構成員である

先生方のための補償制度

山口県公立高等学校PTA連合会 教員総合補償制度

主な補償内容（2022年1月現在の内容です。）

- ① 先生方の職務遂行に起因する法律上の損害賠償責任を補償〈施設所有（管理）者賠償責任保険〉
- ② 先生方の個人生活に起因する法律上の損害賠償責任を補償〈普通傷害保険個人賠償責任補償特約〉
- ③ 先生方のケガの24時間補償〈普通傷害保険〉

詳しくは下記取扱代理店・扱者

フリーダイヤル 0120-084-025

「教員総合補償制度係」までお問い合わせください。

制度引受
保険会社

AIG損害保険株式会社 中国・四国地域事業本部（広島支店）

〒730-0011 広島市中区基町12-6 富士火災広島ビル TEL 082 (535) 6010

受付時間：午前9:00～午後5:00（土・日・祝日・年末年始を除く）

取扱代理店・扱者 **NOSCOインシュアランスサービス株式会社**

〒730-0013 広島市中区八丁堀14-10 TEL 0120-084-025

受付時間：午前9:00～午後5:00（土・日・祝日・年末年始を除く）

〔〔承認番号 D-005649 (2023-01)〕〕

令和4年度 山口県ひとづくり財団

高等学校等奨学生募集のお知らせ

山口県ひとづくり財団では、向学心に富み、有能な素質を有しながら、経済的理由により修学が困難な生徒に対し、奨学金の貸与（無利子）を行っています。

《出願の資格》

- 保護者が山口県内に住所を有しており、高等学校等に在学している者
- その他団体の貸与型の奨学生でない者

《募集期間》

令和4年4月8日（金）～4月28日（木）

※出願に必要な書類の入手、提出は学校経由となります。

詳細は、学校または奨学センターにお問い合わせください。

公益財団法人 山口県ひとづくり財団

奨学センター

753-0072 山口市大手町2番18号

山口県教育会館内

☎ (083) 933-4770

HP <https://www.hito21.jp>

任意加入

こども総合保険
自転車総合保険

[illegible]

お問合せ

[承認番号 S-220296 有効期限 2023-03]

PTA（団体）に過失があり、PTA 活動中に、他人の物を壊したり、他人をケガさせたり、他人から借りた物を壊したりしたときの保険です。